

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	かがわ総合リハビリテーションこども発達センター たいよう		
○保護者評価実施期間	R7年 1月 6日		~ R7年 1月 24日
○保護者評価有効回答数	(対象者数) 16名	(回答者数)	15名
○従業者評価実施期間	R6年 12月 22日		~ R7年 1月 9日
○従業者評価有効回答数	(対象者数) 5名	(回答者数)	5名
○事業者向け自己評価表作成日	R7年 3月 31日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※) だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	お子さんの発達段階に応じた個性のある計画を立案しています。また評価をアセスメントして保育に取り入れています。	知識と経験のある保育士が、お子さんの発達や特性に応じた、発達支援の方法(写真や絵カード、VOCAスイッチの活用、保育プログラムの工夫など)を取り入れながら支援しています。看護師が配置されており必要な医療的ケアを受けながら、ご家族にも安心していただけるよう配慮しています。	並行通園先のこども園や幼稚園からの保育、リハビリテーション見学の受け入れや訪問を実施し連携しています。また職員間で情報共有し、より多角的な視点から助言や支援ができるように自己研鑽を継続していきます。
3	理学療法士、作業療法士、言語聴覚療法士、視能訓練士等と常に情報交換し、相談できる体制にあります。多職種で支援を行うことで、多角的な視点での評価・支援を提供することができます。	職員(保育士・看護師・児童発達支援管理責任者)と理学療法士、作業療法士、言語聴覚療法士が連携し、情報共有しています。また定期的に医師による回診や多職種でカンファレンスをして多角的な視点での評価・支援を提供しています。	職員間でのカンファレンスなどで情報共有し、個性のある療育に繋がっていきます。
4	家族支援の一環として毎月1回の保護者教室や月3回程度の親子水泳教室(5月~10月)親子体操教室(11月~3月)を実施しています。	保護者教室は、保護者の方からの聞きたい、知りたいなどの要望にお応えした内容を、企画しています。今年度は、親子クッキング、各支援学校の説明会、歯磨き指導、防災教室、乳幼児期の栄養、福祉制度などを実施しました。また親子水泳・体操教室は体育指導員の指導のもと、みんなで楽しく身体を動かすことを目的に行っています。	今年度実施した保護者教室以外に「卒園児のご家族の方から話が聞きたい」や「体に負担がかからない支援の仕方やストレッチ方法が知りたい」などの要望があり、実施に向けて計画しています。

	事業所の弱み(※) だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	各種マニュアルの策定や災害を想定した定期的な避難訓練の情報発信について課題があります。	関係部署と相談しながら各種マニュアルを策定したり、定期的に避難訓練を実施しています。その状況が保護者の方に伝わっていない現状があります。	毎月発行している保育だよりや朝の会での説明だけでなく、各種マニュアルの掲示などの工夫をします。また避難訓練の実施などの情報をお手紙などで発信します。ご家族にしっかりと情報を伝えることができる仕組みづくりをしていきます。
2	お子さんの特性に合わせた環境構成が不十分な場所があります。	スペースは確保されていますが、床や壁、トイレ、手洗いなど環境が不十分なところがあります。ご家族の協力を得ながら支援方法を工夫して対応しているため改善が必要です。	トイレや手洗い、床や壁など、お子さんに安全な支援が提供できる環境に整えていきます。また広い空間を利用して療育に活かせるように工夫し、楽しんで過ごせるように努めます。
3	家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族も参加できる研修会等の機会について必要だと思っています。	お子さんの特性に応じた課題別の研修ではなく、現状では一律の保護者教室を開催しています。	ご家族やお子さんの個別の課題や支援については、必要に応じて関係機関と課題に合わせた情報提供や支援方法を検討します。保護者教室に参加できなかったご家族には資料を配布し、開催する日程を調整するなど検討していきます。